大地から小さな学校のおたより

ブラジル第３アリアンサ富山県日本語学校便り　　ＮＯ１３　８月号

８月になり、私はブラジル生活２年目を迎えました。１年を振り返ると、慌ただしい毎日の中に、時として村の人たちの笑顔が甦ってきます。「先生、先生」といつも呼びかけていただき、村の人たちの支えで１年間無事に過ごせたのではないかと思います。子どもたちは冬休みを終え、再び日本語学校にやってきました。今年は中学生以上が日本語能力試験を受けることになりました。そのためか、みんなとても頑張って勉強しています。みんな合格できたらいいですね。

体育祭がありました。

体育祭が３０日に行われました。寒かった８月もそろそろ終わり、この日は雲ひとつない晴天でした。おかで子どもたちも私も真黒になってしまいました。今年の体育祭は３０回目を迎え、歴史を感じるようになってきましたが、３０年前は３００人ほどの子どもたちがいたのに、今ではなんと１００人弱しかいません。伝統を守ることは大切なことですが、少しでも子どもたちが増えるような行事運営を考える時が今迫っているように思います。体育祭の是非をめぐり、皆さんで話し合いをすることになりました。

婦人会の人たちは料理が上手です

第３アリアンサは、お母さん方が作る料理がとても美味しいと評判なのです。今回はそのお母さん方で集まる婦人会の料理を紹介します。この日は皆さんで集まって料理会が開かれました。料理の材料はなんと「バナナ」です。バナナのごはん、バナナのハム巻クリーム煮、とんかつならぬバナナかつ、バナナのババロアいろいろなバナナの料理が並びました。バナナの甘味は意外とごはんに合うようです。バナナかつは本当にお菓子のようで美味しく、ブラジルのおいしいコーヒーとよく合います。みなさんも騙されたと思って、試してみてください。

サソリ発見！

私は、何度も言うようで申し訳ないのですが、カラオケが大の苦手です。先日カラオケ同好会に誘われ、断りきれず、また練習に行ってしまいました。カラオケ同好会はいつも夜に行われます。私はいつもビールを持参してほろ酔いになってから歌うことにしています。お酒の力を借りないと恥ずかしくて歌えないのです。カラオケで飲むビールは本当においしくありません。いつも憂鬱になりながら出番を待つのですが、この日は様子が違いました。

５ｍほど向こうから、黒いものがチョコチョコと歩いてきたのです。一瞬「ゴキブリかな」と思ってじっと眺めていたら、なんとザリガニのように歩いてきたのです。「もしかして、こ・れ・は」と思った瞬間、カラオケ仲間の一人が「サソリだー」と言い私はびっくりしました。あわててカメラを取りに行き、パシャリと撮ったサソリは３ｃｍほどの小さなサソリでした。もう一人のカラオケ仲間に「初めて見ました」と伝えるとその 65 歳のカラオケ仲間も「私も初めて見ました」と言い、私は２重の驚きにあっけにとられてしまったのです。そんなに簡単に見られるものではなさそうでした。なんとも貴重なブラジル体験でした。

子どもたちはお笑いが大好きなようです

ここアリアンサにきて何が一番楽しいかと言うと、子どもたちです。子どもたちは一生懸命先生を笑わせようとしてくれます。それも日本語で一生懸命なのです。今回はそのひと幕を紹介します。今回のお題は「版画のばれん」です。もちろん、そのためには先生が例を見せなければなりません。はじめ私は、「ばれん」を見せた時、「先生それなんですか」と聞いてきたので、「これは化粧をする道具です」と言って顔にぽんぽんと叩いて見せたら、次から次へと漫才で言うボケを始めたのです。

「せんせい、これ　べんとう？」と言って笑いながら食べる仕草をしました。

「じゃ　せんせい　これなげる？（手裏剣）」と言って笑いながら投げる格好をしました。

「ちがう、せんせい　これは　かがみです」と言って笑いながら髪をとかす格好をしました。

そして最後に私は「これは、版画をする道具です。」と言って実際にやって見せたら、「えーおもしろくなーい」と返事が返ってきました。しかし版画制作をしている子どもたちはとても興味を持っていて、制作中は何も言わず熱心に作品を作っていました。終わったら「おもしろかった」と言っていました。

写真は、再現写真です。カメラの前だと、いまいちキレがないようです。

こどもテストの勉強をしています

ブラジルにはブラジル日本語センターという機関があります。これはブラジル独自で発展した日本語教育施設です。ここで主催されているのが「こどもテスト」です。これは幼いころから日本語を勉強している子どもたちに少しでも勉強する機会を持ってもらおうと始めたテストだそうです。テストのレベルは１から７で、それぞれのレベルに合わせて受験できるシステムになっています。

今、中学生以上の生徒たちは、こどもテストの勉強を一生懸命しています。このテストは、日本語能力試験の４級３級のレベルで、とても分かりやすいテストとなっているので、生徒たちは自信を持って勉強に取り組んでいます。

問題①　私のへやに、コンピュータ＿＿テレビがあります

問題②　私のへやに、コンピュータ＿＿テレビなどがあります

下線に入る助詞は何でしょうか、分かりますか。問題①は「と」、問題②は「や」ですね。これはレベル６の問題です。「と」はテレビとコンピュータが２つしかない時に使いますね。「や」はテレビやコンピュータや電話などいくつかある中から選んで表現するときに使います。それでは、問題①に「や」を入れてみてください。実はこれは問題②と全く同じ意味になります。つまり「など」を省略して表現することも可能なのです。このように考えると、日本語の助詞の大切さが分かりますね。

日本語に限らず、言葉は空間のイメージを言語化しているものがあります。これは、母語と学習言語の変換だけでは説明できない状況説明が必要になってきます。それをどのように説明するかが、教師の腕の見せ所かもしれません。５歳から１８歳までの様々な学習ニーズのあるこの学校では、個々に合わせた説明をしなければなりません。ポルトガル語を一切話さない私にとっては悩みの種ではありますが、日本語や視覚的な資料を元に説明することは、とても楽しい仕事になっています。あの手この手で教えていくうちに、子どもたちは理解してくれているようです。この調子で残りの半年間も頑張りたいと思います。

挿絵　「大地の日記―音のない音楽―」２００９年８月制作